

## 平成28年度 学校総合評価

### 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「心豊かで調和のとれた教育」を目指した教育活動を推進する方策として、5つの重点項目と13項目の達成目標を掲げて取り組んだ。

「学習活動」：自主的学習習慣の定着を目指した各学年の平日学習時間の達成目標を、昨年と同様の内容で設定した。年間3回の調査で、1学年では、学習時間2時間以上が4月段階では80%と目標を上回っているが、9月・1月と徐々に減少している。3学年では9月の調査で目標にかなり近づいているものの、2学年では年間を通じて目標値より大幅に下回っているのが問題である。1年生の1～2学期間での学習習慣の定着化指導に更なる工夫が必要であるし、2学年の中だるみ現象に歯止めをかけるべく、さらなる方策を検討すべきと考えている。

普通科進学校として、密度の濃い学習時間を確保するような生徒に対する効果的な働きかけを模索するだけでなく、互見授業（そのフィードバックも含む）・教科部会を通して授業方法の改善に一層努める必要がある。また、アクティブラーニングの実践的研究も推進しなければならない。

「生徒指導」：過去3年間にわたり「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきて、ある程度成果を上げたということで、一つにまとめた目標としたが、双方意識の低下が見られるので、改善の意識を持たせるように取り組まなければならない。スマートフォンについては、使用時間だけではなく、男子の動画視聴時間、女子のSNS利用などについて、より詳しい実態を知り、自分自身で制御できるように家庭と連携して指導していきたい。

「進路支援」：3年次の進路第一志望合格率は、昨年より2%上昇して54%だったが、目標の70%には遠く届かなかった。第一志望にこだわって最後まで粘り強く取り組ませるような方策がさらに必要である。進路行事によって進路目標の明確化を図ることやそれに対する努力の向上については、昨年同様目標を達成できた。今年度も難関国立大学合格者が出るなど、一定の効果があつたと思われる。今後も学年進行とともに熟成させられるような進路支援システムの構築に努めたい。

「特別活動」：昨年度までの本校生徒の行事満足度は全体で80%を越えていることから、今年度は行事への積極的参加を目標とした。体育大会87%、芸術祭95%、球技大会76%、計86%とほぼ目標を達成した。各行事の前に生徒会広報誌を発行して、生徒会の活動内容や行事の進行状況等を伝えたことで、各行事への生徒の関心・意欲が高まったものと思われる。

図書館活動の充実に関しては、HR読書会でのビブリオバトルの実施や、「読書の時間」の設定、図書館フェア等の方策により、ようやく不読者の割合を目標以下にすることができた。また、図書館入館者数に関しても、4月当初に図書館利用のオリエンテーションを行ったり、各学年・教科と連携し調べ学習の授業の場に図書館を提供するなどしたため、目標を達成することができた。今後とも読書意欲を高めるべく、様々な方策に取り組んでいきたい。

「その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携）」：PTA総会出席率が、目標を上回る39%、PTA役員の会合出席率はどれも9割前後と目標を大きく上回った。役員の責任分担が明確であることや、PTA行事の内容の工夫や学校行事への参加に対する呼びかけ等の努力の成果と思われる。一新されたWebページへの行事掲載率は9割と高く、3月にはギャラリーの開設によりさらに多くの行事の紹介が迅速円滑になった。今後も、校外への広報、情報発信に一層努めたいと考えている。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

今年度は、創立から30余年を経過し成熟期にある呉羽高校に草創期の「進取の気象」を取り戻そうという気概のもとに目標を掲げ、その達成、充実に向けて取り組んできた。この1年でそれぞれの課題について、実践の進んだもの、まだまだ検討の余地があるもの等、種々あるが、それぞれの結果を踏まえて来年度のアクションプランに反映させたいと考えている。

次年度も将来のビジョンを踏まえ、生徒・保護者・地域との連携を目指し、音楽コースをもつ本校の特色を十分に生かして、生徒の活力ある学校生活を実現するために、教職員が一致団結して進めていきたいと考えている。

